

献 辞

上野秀夫先生は、近畿大学の規程により、2003年3月末日をもって定年を迎えられました。引き続き副学長、特任教授としてご活躍されていますが、教授会でお目にかかる機会はなくなり、私ども後進一同にとっては、やはり寂寥の感を禁じ得ません。永年のご指導とご功績に対して、心から感謝の意を表する次第であります。

先生は、1958年3月、日本大学大学院法学研究科修士課程修了後、直ちに本学世界経済研究所員に迎えられ、その後、商経学部専任講師、助教授をへて、1969年4月、35歳の若さで教授に昇任されました。爾来、まさに商経学部の歴史と共に歩まれ、大学・学部の発展に半生を捧げて来られたと言えましょう。そして、現在も学園の重鎮として本学のさらなる飛躍にご尽力されるお姿には敬服のほかございません。

先生は、知る人ぞ知る篤学の士であります。本学へ着任以来、一貫して中国経済論の理論的・実証的研究と教育に携われ、多数の優秀な学部・大学院ゼミ生を送り出していただきました。温厚篤実なお人からは多くの人に慕われ、上野ゼミは常に人気ゼミの一つでした。研究面では、1984年3月に商学博士の学位を取得、単著10点、共編著9点、分担執筆12点、学術論文100点を数え、驚嘆に値する成果をあげておられます。学会活動も盛んで、日本国際経済学会、日本貿易学会、アジア市場経済学会などの理事としてご活躍され、今日に至っております。まさにリーダーのお一人であることが窺えます。

ご専門分野で大きな成果をあげられる一方、学内行政面でも、世界経済研究所長、大学院商学研究科長、大学院経済学研究科長、留学生センター長、商経学部長などの要職を歴任されました。現在も、副学長、教職教育部長、産業・法律情報研究所長を兼務されています。この間、とくに大学院経済学研究科（博士前期・後期課程）の新設、商経学部の分離改組（経済学部、経営学部）には筆舌に尽くしがたいご苦勞が伴ったことと存じますが、無事これ

らをクリアされました。改めて、心からお礼申しあげる次第であります。

先生は、ご定年後、経済学部所属の特任教授になられました。学問研究と教育のあり方が問われている現在、経済学者としての生き方を身をもって示された先生の思いを、これからの学部の教育・研究に活かして参りたいと存じます。

本号は、上野秀夫教授退任記念号として企画編集されました。ここに感謝と敬意の念をこめて、本論文集を教授に捧げます。

末筆ながら、先生の一層のご健康とご活躍を祈念いたします。併せて、この記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位に厚くお礼申し上げます。

2005年3月

経済学部長 武 知 京 三